

十勝AI農業特区構想について

提案者（国家戦略特区制度を活用した規制・制度改革提案）

十勝総合振興局管内19市町村

帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

十勝が目指す姿（構想の概要）

十勝が有するポテンシャルの高さ

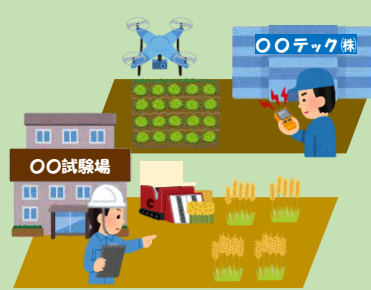
- 国は、社会課題の解決や包摂的な成長を実現するため、**AI利活用の加速的推進**を図るとしており、また、2030年までに食料自給率を38%から45%への引き上げを目指す中、生産性向上やコスト低減に向けて**スマート農業技術の導入**などを進めることとしています。
- 大規模専業経営が多い北海道において、十勝は、開拓以降、**新しい農業技術を積極的に取り入れ**、食料自給率1,295%を誇る今日の大規模畑作酪農地域の地位を確立してきました。また、帯広畜産大学や農業試験場など**農業と食の研究機関や農業機械メーカーが集積**するほか、道央地域と道東地域をつなぐ**交通の要衝**にも位置づけられており、**AI農業の開発・実証、実装の先進地となるポテンシャルを有しています。**

「AI農業特区」を通じて目指す姿

- この、歴史的、地理的な十勝のポテンシャルを活かし、「AI農業特区」を活用しながら、工学系研究機関やテック企業を呼び込み**AI農業研究の拠点化**を図るとともに、**AI農業技術の開発・実証、実装環境の整備**を図り、それらのスピードを加速します。
- こうした取組を通じて、人手不足やコスト高などの課題を解決し、将来にわたり食料供給地域としての役割を果たしつつ、AI農業を全国に普及していく**AI農業先進地を実現**します。

目指す姿

AI農業研究の拠点化



AI農業の開発・実証、実装環境の整備



AI農業先進地の実現

十勝AI農業特区の提案項目一覧（13項目）

特区における提案項目

ロボットトラクタの公道走行の促進

①作業機を装着・けん引するロボトラの公道走行のルール化	規制緩和等（新たな仕組みづくり）
②ロボトラの公道走行実証試験を行う際の手続きの簡素化	規制緩和
③ロボトラと有人トラックの隊列走行の円滑な実現	規制緩和

ドローンの使用促進

④手続きの省略	規制緩和
⑤飛行可能な場所の追加	規制緩和
⑥農業使用基準の弾力的な運用	規制緩和

Wi-Fi環境の充実

⑦送信出力上限の引き上げ・実証期間の延長	規制緩和
⑧Wi-Fi HaLowのDuty比制限の撤廃	規制緩和
⑨テック企業等の立地促進	規制緩和
⑩ロボット農業機械の早期開発、実装の促進	規制緩和等（新たな仕組みづくり）
⑪公的研究機関の機能充実	体制強化

その他、国への提案

⑫農業関連施設・設備の導入支援	その他（税制優遇）
⑬ロボット農業機械の導入に係る補助事業の創設	その他（補助事業創設）